

(1) 事業の目的

下水道施設は市民生活や経済活動を支え、水環境の保全を図る社会基盤施設である。県内人口の約30%を占める流域下水道計画区域の下水道整備を進めることにより、生活環境の改善と公共用水域の水質保全を図る。

(2) 指標：下水道処理人口普及率及び水処理施設整備率

西遠流域下水道の下水道処理人口普及率及び狩野川流域下水道西部処理区の水処理施設整備率を指標として設定した。

指標の達成状況

西遠流域下水道の最終実績値は88.7%であり、目標（90.9%）を達成しなかったが、幹線管渠の計画的な整備により、下水道処理を確実に推進することができた。

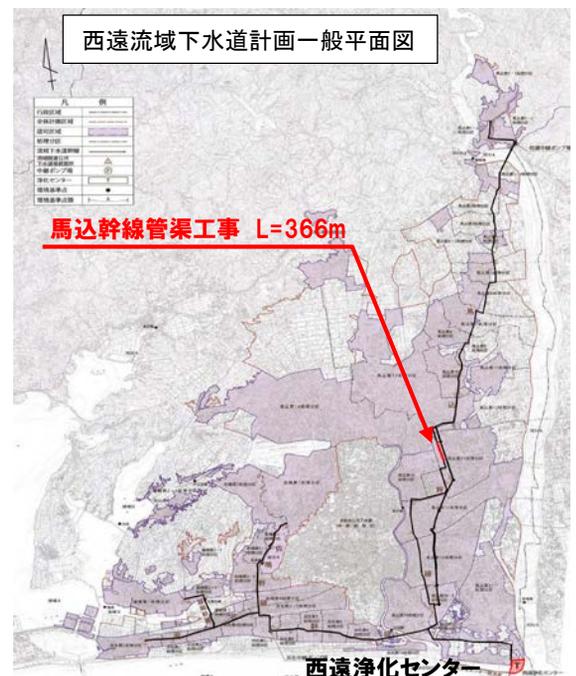
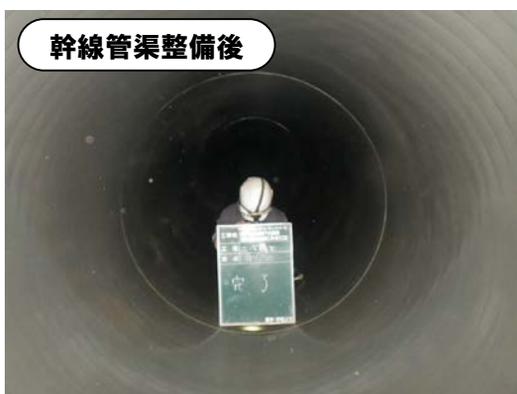
狩野川流域下水道の最終実績値は75.0%であり、汚水量の増加が見込めず新たな水処理施設の整備を実施しなかったためである。

計画の成果目標	定量的指標			
	当初現況値	最終目標値	実績	達成率
	H27当初	H31末		
西遠流域下水道の 下水道処理人口普及率	88.6% (流域下水道処理人口 / 流域 下水道全体計画区域内人口)	-	(H27末) 88.7%	-
狩野川流域下水道西部処理区 の水処理施設整備率	75.0%	87.5%	75.0%	0%

(3) 指標に関連する実施事例

◆事業の効果（西遠流域下水道）

西遠（H27末に浜松市へ移管）及び狩野川流域下水道区域内の人口は県内人口の約30%を占めているため、下水道整備を進めることで、生活環境の改善と公共用水域の水質保全が図られた。



(4) 定量指標以外の効果発現状況

狩野川流域下水道で汚水を処理する過程で発生する下水汚泥について、平成31年（令和元年度）実績で年間約18,800 tが発生したが、その全てをセメントや堆肥の原材料として有効利用した。

(5) 今後の方針と目標達成見込み

第3期整備計画（令和2年度～令和6年度）では、狩野川流域下水道の目標値を水処理施設整備率から下水道処理人口普及率に見直すことで、より定量的な指標に基づいた事業を推進し、さらなる生活環境の改善と公共用水域の水質保全を図る。